令和５年度 先進都市視察　報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	**貝塚**　　市議会
報告者	議長　**南野 敬介**　副議長　**阪口　勇**　事務局長　**井谷　真**
視察日時	令和５年７月５日（水）　13：30～15：30
視察先	茨城県取手市
概　要	議会DXについて、委員会のオンライン開催について 取手市は、茨城県の南端に位置し、県南部の玄関口として、東京、成田、つくばを結ぶ三角形の中央に位置し交通の要となっており、交通の利便性と水と緑に囲まれ自然環境に恵まれている。取手市議会は「議会改革度調査2021」で全国１位を獲得され、「2020」の調査に続き２年連続でランキング１位となった、議会改革の先進的な取り組みを進めている自治体です。 現在、中心的な役割を担っている、議会事務局の職員から説明を受ける形式で、まず最初に「委員会のオンライン開催」について説明を受けた。項目として、１、オンライン会議の導入経過について　２、条例・規則改正等について　３、使用設備について　４、議事の違いについてを順に説明いただき、オンライン委員会に関する説明が終了した。 次に、「議会DX」について、主に取手市議会におけるタブレットを活用した様々な取り組みについて、事例を挙げて詳細な説明を受けた後、その他の取り組みとして「デモテック連携協定」及び「音声テック技術関連連携協定」について説明を受け、終了後、質疑応答を行った。 閉会後、議場を見学させていただき、視察を終えた。
所　見	議会DXについて、委員会のオンライン開催について ・オンライン会議の導入経過については、もともと取手市議会では感染症対策会議というものがあり、これは東日本大震災の教訓として作られた会議体とのことでしたが、令和２年４月にコロナの緊急事態宣言が初めて出されたときに、条例や規則等も整備されたということでした。その後も最初の条例等の制定で満足することなく、次々と条例・規則等を改正していくところに、見習うべき姿勢を感じた。 ・使用設備については、少ない予算で可能な限り、議会事務局の職員が自前で行っているとのことで、スキルの高さと仕事に対する情熱と意欲を感じた。先進的な全方位カメラ（360度カメラ）については、実際の映像を見せてもらったが、現地視察等にも大きな効果を発揮しており参考となった。 ・オンラインでの委員会や会議に関して、委員会では令和２年以降既に60回以上開催しており、また、会議においては現地調査、研修会、オンラインによる視察の受入れ、市民との意見交換会など令和２年以降、140回以上開催しており、説明の際にも触れていたが、職員全員が同じことができるようにすること、慣れ・習熟と言ったことが課題だと感じた。 ・議会DXに関し、タブレットなどを活用した様々な取り組みの中で、提出予定議案のオンラインによる事前説明により、議員各自が空いている時間を使い繰り返し確認できる点と、現地視察での活用により、時間と費用の大幅な削減につながる点、また、本市においても検証が必要と感じたが、ペーパーレス化による経費と時間と資源の削減が思った以上に大きかったと感じた。

令和５年度 先進都市視察　報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	**貝塚**　　市議会
報告者	議長　**南野 敬介**　副議長　**阪口　勇**　事務局長　**井谷　真**
視察日時	令和５年７月６日（木）　9：45～11：15 、13：30～14：30
視察先	茨城県守谷市、そなエリア東京
概　要	グリーンインフラ×スマートシティ自然共生型スマートシティモデル事業について、そなエリア東京 守谷市は、茨城県の南西端に位置し、利根川や鬼怒川に囲まれ、水と緑豊かな地域で、平成14年２月に市制施行した比較的新しい自治体です。 グリーンインフラ及び自然共生型スマートシティモデル事業に先進的に取り組まれており、民間コンサルタント会社とグリーンインフラに関する官民包括連携協定を締結するなど、新しい官民連携の形としてスタートし、全国初の取組みとして注目を集めている。官民連携事業を中心的立場で進められている、民間コンサルタント会社の推進室主幹から、主に以下の説明を受けた。 １、守谷版グリーンインフラがめざすこと（ビジョン）　２、もりやグリーンインフラ推進協議会について　３、行政計画・地域計画への位置づけについて　４、ハード系施策について　５、スマートシティ関連施策：重点事業化促進プロジェクトについて詳細な説明を受け、説明後、事前質問への回答、質疑応答を行い視察を終えた。 そなエリア東京では、防災体験ゾーンにおいて、地震発生後の72時間を生き抜くために、被災地を模した体験ゾーンでタブレットを用いた体験学習などを行った。また、施設内の視察で、大規模災害時に内閣府が活動拠点として予定している本部棟を上部から見学し、発災時の運用方法などの説明を受けた。
所　見	グリーンインフラ×スマートシティ自然共生型スマートシティモデル事業について、そなエリア東京 ・守谷市は多くの自然や緑に恵まれた地域ではあるが、それらグリーンインフラを活用することで、地域に多様な価値を生み豊かな自然を中心に持続可能な都市をめざした点に注目した。また、グリーンインフラを推進する主体として、「もりやグリーンインフラを推進協議会」を官民連携で設立し、市長を先頭に若手職員中心のワークショップを開催するなど、泉州地域にも緑、海、山といった自然も豊富なことから、多くの取り組みが参考にできると感じた。 ・ハード系の施策として、観光協会やボランティア、市内中学生、企業等の協力を得て、市と協働で整備した総延長４㎞の遊歩道「守谷 野鳥のみち」については、本市でも参考にできる施策であると感じた。 ・スマートシティ関連の施策として、ICT等の新技術を活用しつつ、自然共生型のモデル事業に取り組まれており、今回視察に参加した８市も守谷市同様、比較的コンパクトな市が多いので参考にできる取組みだと感じた。 ・そなエリア東京は、防災体験学習施設と災害時防災拠点が一体となった、隣接する広大なヘリポートを含む東京臨海広域防災公園内の施設で、主に首都圏における災害発生時に威力を発揮する施設である。全国各地で自然災害が頻発する中、各地方においてもこのような施設を整備していくことが必要だと感じた。

別紙

大阪府南部市議会議長会先進都市視察報告

貝塚市議会　議　　長　南野 敬介
副 議 長　阪口　勇
事務局長　井谷　真

令和５年７月５日から６日にかけて行われた、大阪府南部市議会議長会先進都市視察に参加しましたので、その状況を次のとおり報告いたします。

○ 委員会のオンライン開催について、議会 DX の取組について（茨木県：取手市）
令和５年７月５日(水)　13:30～15:30　　於：取手市役所　議事堂　大会議室

冒頭、取手市議会の落合副議長から歓迎のご挨拶があり、議長は早稲田大学のマニュフェスト研究所主催の地方議会サミットが早稲田大学で開催されており、その中で取手市の取り組みについて、本日記念講演をされるとの紹介がありました。

続いて、南部市議会議長会を代表して当番市である貝塚市議会の南野議長から、視察受入れに対するお礼の挨拶を申し述べました。

続いて、取手市議会側から自己紹介があり、まず、今回の視察に同席いただいている根岸議員の自己紹介に続き、吉田事務局長はじめ事務局の自己紹介の後、南部市議会議長会側の自己紹介を行いました。

引き続き、視察事項である、１、委員会のオンライン開催について、２、議会 DX の取り組みについてをテーマに、議会事務局職員の高橋主事よりパワーポイントを使用しての説明がありました。

まず、１、オンライン開催については、①オンライン会議の導入経緯について、②条例・規則改正等について、③使用設備について、④議事の違いについてを順に説明いただきました。

オンライン会議の導入経緯については、もともと取手市議会には感染症対策会議というものが設置されており、これは東日本大震災の教訓として作られた会議体とのことでした。

これが令和２年４月のコロナウイルス感染症の緊急事態宣言が初めて出されたときに、どうやったら集まらずに、顔を合わせずに市議会として会議ができるだろうかとい

う議論になり、オンライン会議という形で個人のパソコンやスマートフォンを使ってとりあえずやってみようということで始まり、災害対策会議及び感染症対策会議が毎週のように開かれるようになり、皆さんが徐々に慣れていったということでした。

それをきっかけとして、条例・規則等についても整備を行い、令和２年９月には、オンライン委員会を開催できるように条例・規則等を改正し、実際にオンライン委員会を開催しはじめたとのことでした。当初のオンライン委員会では採決の部分は除いていたとのことでしたが、令和３年６月には関係条例・規則等を改正し採決ができるようにしたとのことでした。さらに令和４年には、公務や疾病、看護等その他やむを得ない場合においては、オンラインで委員会に参加できるよう条例・規則等を改正し、現在では、開会の１時間前（できれば前日まで）までに、オンライン出席を希望する旨の連絡があれば、オンライン出席を可能とするところまで、進んで来ているとのことでした。オンライン委員会に関する、条例・規則等の整備については、オンライン会議を行うにあたって、必要な改正等を一歩一歩進めて行ったという印象でした。

使用設備については、少ない予算で可能な限り、議会事務局の職員が自前で行ったとのことで、カメラとパソコン、マイクについて若干の改良を加え、オンライン会議ができる環境を作ったとのことでした。通常の配信設備とは別に先進的な全方位カメラ（360度カメラ）については、使用している実際の映像も拝見したが、現地視察等でも大きな効果を発揮していると感じた。

議事の違いについては、例を挙げて説明していただき、例えば挙手の方法についても一定のルール作りを行ってから、異議がある場合はどのように示すであるとか、挙手採決、棄権などについても、最後に議事録として残すことができるようにするなど、関係条例・規則の整備を行うとともに、全員協議会においてオンライン会議時の申し合せについて、取りまとめを行い取り組んで来られた。

次の項目、２、議会 DX の取り組みについては、ICT の取り組みに関して、タブレットを活用した取り組みについて説明していただいた。

タブレットの活用として、各種会議、現地視察、広報広聴活動、災害対応、各種研修、日程調整、日程確認、文書作成、さらには中学生とのコラボ事業などにも活用しているとのことで、有効な活用方法として、提出予定議案について、オンラインによる事前説明方式を取ることにより、各議員が空いている時間を使い繰り返し確認できる点と、現地視察での活用により時間と費用の大幅な削減につながること、また、音声認識システムを用いることにより、発言直後に文字として確認することができる点などを挙げら

れ、さらにはこれらによりペーパーレス化を進めることにつながり、紙の削減やそれに伴う経費の削減、さらには相当な作業時間の削減にもつながったとのことであった。

最後にその他の取り組みとして、「音声テック技術関連連携協定」として、AI による文字起こしシステムを活用し、議事録の作成や、ユーチューブ配信の際の字幕の作成に活用するとともに、連携協定により、議会報作成支援システムや会議録視覚化システムにも取り組んでいるとの説明を受けました。

その後、何点かの質疑応答が行われた後、結びに貝塚市議会、阪口勇副議長より視察のお礼の挨拶を行い、最後に、議場に移動し、議場内の見学と記念撮影をして、15 時 30 分に取手市での行政視察を終えました。

取手市での視察を終えて、取手市議会は「議会改革度調査 2020、2021」と２年連続全国１位を「2022」でも全国２位を獲得されるなど、議会改革の先進的な取組みを進めている自治体で、本市でも参考にさせていただきたい事例が多くありました。

○ ｸﾞﾘｰﾝｲﾝﾌﾗ×ｽﾏｰﾄｼﾃｨ自然共生型ｽﾏｰﾄｼﾃｨﾓﾃﾞﾙ事業について（茨城県：守谷市）
令和５年７月６日(木)　９:45～11:15　　於：守谷市役所 中央図書館 視聴覚室

冒頭、守谷市議会の高橋議長と寺田副議長から守谷市の特色の紹介などを交えた歓迎のご挨拶がありました。

続いて、南部市議会議長会を代表して当番市である貝塚市議会の南野議長から、視察受入れに対するお礼の挨拶を申し述べました。

続いて、説明者側の(株)福山コンサルタント事業本部 大塚技師長はじめ、守谷市市長公室企画課 高橋次長他出席者の自己紹介がありました。

引き続き、視察事項について「もりやグリーンインフラ推進協議会の取り組みについて」(株)福山コンサルタント新領域推進室 高井主幹からパワーポイントを使用しての説明がありました。

説明は、守谷市が進める「グリーンインフラ及び自然共生型スマートシティモデル事業」については、2017 年 11 月に民間コンサルタント会社とグリーンインフラに関する官民包括連携協定を締結し、新しい官民連携の形としてスタートするなど、全国初の取

組みとして注目を集めているとのことでした。

守谷版グリーンインフラがめざすビジョンは、「都市の魅力の向上」、「住民満足度を高める」、「不動産価値向上・移入促進」、「行政管理コスト軽減」、「コミュニティ強化」、「ESG 投資や企業誘致」の６つを短期から中期の目標とし、「子供、孫の世代まで豊かな自然をつなぐ」ことを長期の最終的な目標としているとの説明を受けた。

もりやグリーンインフラ推進協議会については、官民連携で設立し、市長を先頭に若手職員中心のワークショップを開催するなど、泉州地域にも緑、海、山といった自然も豊富なことから、多くの取り組みが参考にできると感じた。

また、もりやグリーンインフラ推進協議会は、市の総合計画や都市計画マスタープラン、緑の基本計画など各種行政計画及びスマートシティ基本構想の策定にも関与されているとのことでした。

ソフト系の施策として「MORIYAいきもの調査隊」「Moriya Green Beer」などに取り組まれているとの報告があり、ハード系の施策としては、観光協会やボランティア、市内中学生、企業等の協力を得て、市と協働で整備した総延長４kmの遊歩道「守谷野鳥のみち」などに取り組まれている。その他、実証実験の取り組みを含め、樹木見守り調査隊などの取り組みに加え、公共施設の緑化事業として、ホップをグリーンカーテンとして生産する取り組みや、クラフトビールの製造・販売、シェアファーム事業では、福祉・健康増進効果に寄与する地域協働の市民農園整備やふるさと納税など、資金を事業に繋げるための仕組みとして、活動資金確保にも取り組まれているとの報告があった。

スマートシティ関連施策：重点事業化促進プロジェクトについては、ICT等の新技術を活用しつつ、自然共生型のモデル事業に取り組まれており、今回視察に参加した８市も守谷市同様、比較的コンパクトな市が多いので参考にできる取組みだと感じた。

その後、何点かの質疑応答が行われた後、結びに貝塚市議会、阪口勇副議長よりお礼の挨拶を行い、11 時 15 分に守谷市での行政視察を終えました。

守谷市での視察を終えて、守谷市は「グリーンインフラ×スマートシティ」をキーワードに各種事業に取り組まれ、緑豊かなコンパクトな地域であり、本市との共通点も多いように感じられ、参考にさせていただきたい事例が多くありました。

○　「そなエリア東京」での防災体験学習について（東京都：江東区）
令和５年７月６日(木)　13:30～14:30　於:東京臨海広域防災公園内「そなエリア東京」

そなエリア東京では、防災体験ゾーンにおいて、地震発生後の72時間を生き抜くために、被災地を模した体験ゾーンでタブレットを用いた体験学習などを行った。

また、施設内の視察で、大規模災害時に内閣府が活動拠点として予定している本部棟を上部から見学し、発災時の運用方法などの説明を受けた。

そなエリア東京は、防災体験学習施設と災害時防災拠点が一体となった、隣接する広大なヘリポートを含む東京臨海広域防災公園内の施設で、主に首都圏における災害発生時に威力を発揮する施設である。全国各地で自然災害が頻発する中、各地方においてもこのような施設を整備していくことが必要だと感じた。

以上、大阪府南部市議会議長会先進都市視察の報告といたします。